

## 【奈良県上北山村】第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクター等の抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

### 1. 作成年月日及び作成対象部署

作成年月日 令和5年2月1日  
作成担当部署 上北山村総務課

### 2. 第三セクター等の概要

法人名 一般社団法人ツーリズムかみきた  
代表者 山室 潔  
所在地 奈良県吉野郡上北山村大字河合 107 番地 とちの木センター内  
設立年月日 平成31年3月26日  
資本金 300万円（上北山村出資300万円 出資割合100%）  
業務内容 「フォレストかみきた」、「道の駅吉野路上北山」、「小処温泉」  
「大台ヶ原物産店」の管理運営受託事業

### 3. 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

「一般社団法人ツーリズムかみきた」は、上北山村の100%出資により平成31年3月に設立された社団法人である。当該法人は、村内の観光施設の指定管理者として、令和元年7月から「道の駅吉野路上北山」を、令和2年度からは「フォレストかみきた」（日帰り温泉・宿泊施設）を、令和3年度からは「小処温泉」（日帰り温泉・食堂）および「大台ヶ原物産店」（売店・食堂）の管理運営業務を行ってきた。

令和元年度は「道の駅吉野路上北山」のみの運営で黒字となっていたが、令和2年度は、「フォレストかみきた」がコロナ禍でのオープンとなり、集客が低迷したことから売上が伸びず赤字経営となった。また、令和2年9月頃にはキャッシュフローが厳しくなり銀行からの借入れを行わざるを得ない状況となった。令和3年度は新規管理運営の「小処温泉」、「大台ヶ原物産店」との連携も図りながら、様々な宿泊プランの販売を展開した。しかし、コロナ禍の影響により令和3年度決算において債務超過に陥った。

村としては現時点では運営開始後間もなく、村の観光・産業振興、雇用場所の確保、村民福祉の観点から各施設の維持管理を継続していくことは必要と考えている。そのため、法人へ職員派遣を行うとともに経営に積極的に関わり、経営改善に取り組んでいる。

#### 4. 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

「フォレストかみきた」は村民の公衆衛生の向上や健康増進、高齢者福祉対策としての役割も果たしており、公共性、公益性を有している。また、「道の駅吉野路上北山」、「小処温泉」、「大台ヶ原物産店」は、林産加工品を始めとする村民の生産物、製作物等の特産品販売所及び村民の就業場所となっており、村民所得の向上と雇用確保に寄与している。これらの施設は観光・産業振興と交流人口、関係人口拡大のため村にとって必要不可欠であり、過去には村営事業として運営していたが、赤字経営の状態が続いていた。経営改善のため、民間に経営を委託したこともあったが、地理的状況や施設規模から採算性に問題が生じ、撤退することとなった。そのため、継続して安定的に営業を続けるため村が出資する法人での運営にシフトしたところである。

しかし、前述のとおり経営開始直後からコロナ禍による影響を受け、債務超過となったことから、引き続き法人が各施設の管理運営を行うためには、今後抜本的な改革も含め様々な手法を検討する必要があると考えられる。村としては、連結決算上の支出割合の78.5%を占める「フォレストかみきた」において、特に独立採算が求められると考えている。そのため、法人は「フォレストかみきた」において積極的な経営改革を実施すると共に営業努力の展開を行い、経営健全化に向けて検討を進める必要があると考えている。

#### 5. 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

令和4年度はワクチンの接種促進や国および県の旅行支援施策の展開により旅行・外出が拡大傾向にあるため、令和3年度に比して宿泊客は増加（10月末時点で前年度比188%）しており、売上についても全体で令和3年度に比して174%となっている。

令和5年度以降は、外国人の訪日解禁や旅行制限が無くなるなど、さらなる観光客の増加が見込まれるため、法人によるインターネット予約サイトの充実や、SNSを活用した情報の発信および評価向上、チラシの県内外への配架により宿泊客および入湯客数の増加に繋げる。そのことによって収入を増加させることにより経営の安定化を図り、令和5年度を目途に債務超過の解消を目指す。

(参考)

6. 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額 (千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	資産総額	26,141	47,873	23,824
	(うち現預金)	22,572	39,311	15,259
	(うち売上債権)	64	1,679	1,522
	(うち棚卸資産)	1,794	4,220	3,849
	負債総額	19,888	44,913	25,223
	(うち当該地方公共団体からの借入金)	1,400	1,400	1,400
	純資産額	6,252	2,959	△1,398

損益計算書から	項目	金額 (千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	経常収益	32,291	129,043	189,385
	経常費用	34,334	148,538	203,646
	経常損益	△2,043	△19,494	△14,260
	経常外損益	4,471	15,975	9,902
	当期純損益	1,515	△3,292	△4,358